

## 転換期の 原子力

下北・函館レポ

下北半島は全国の原発施設内に保管されている使用済み核燃料を再処理、新たに燃 料加工する「核燃料サイクル」の舞台だ。半島の付け根の六ヶ所村にある日本原燃の施設群が中核を担い、原発事故前は東京電

An aerial photograph showing a long bridge under construction. A massive green-painted steel lattice girder spans the structure. The bridge is supported by several concrete pillars and a central pier. In the background, there's a large industrial building and a tall lattice tower crane. The surrounding area appears to be a mix of greenery and urban development.

震災前の想定が通用しない

The map highlights the location of the Rokkasho reprocessing plant in Aomori Prefecture and the planned construction of the Ohi nuclear power plant in Iwate Prefecture.

**リサイクル燃料(備蓄)  
センター建設地**

**電源開発  
大間原発  
(建設中)**

**東京電力東通原発  
(建設中)**

**東北電力東通原発**

**日本原燃  
原子燃料サイクル施設**

**青森県**

ブルに下北半島には、東電が県内原発の使用済み燃料の搬入を再開する。担当者は「健全な燃料のみになる。」受け入れた。東電は一出先として期待していた福島にも健全な燃料はあるがもしれないが、小さな穴がもう一つある。東電が傷はない。80%日本原子力発電が20でもかなり厳しい。少しでも損傷があれば、ほぼ無理だと思つ」と述べた。

東電は使済み燃料ブームから取り出した燃料について、第1原発の容器で保管するとしている。事故前の有効な搬出先を再処理、利用する計画。主力は取り出しへ専用機器サイクル原発の使用済み燃料を専門機器で保管するとしている。事故前の有効な搬出先だった下北半島でも燃料受付を再開する。ブルサマール。事故前は東京電力福島原発3号機など実施した経緯がある。

使用済み燃料どこに不受け入れは  
東電が大株主の同ゼンタ  
ーなら、1~4号機の使用

下北半島は全国の原発施設力福島第一、第二高原発の計画ですが、県内原発に使原子炉建屋が水素爆発などい状況を踏まえ、使用済み核燃料を再処理、新たに込まれるはずだった。この設内に保管されていての使用済み燃料も施設に運び用済み燃料を永久にじめで損傷。4号機では燃料取扱自体を協議する必要がある燃料を50年間、「中間に」置かれる」という懸念を否り出し始めたが、多く「建設したが、保管するため建設したが、